

## 教員おすすめ図書コーナー推薦書

教 員 氏 名	
高松 正毅 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：熟達論：人はいつまでも学び、成長できる</p> <hr/> <p>著 者：為末大</p> <p>出版社：新潮社</p> <p style="text-align: right;">I S B N : 9784103552314</p>	<p>為末大は、熟達への道を「遊→型→観→心→空」の五段階とした。遊とは楽しくて没頭する状態、型とは基礎基本の形成、観とは全体像と部分同士の関係の把握、心とは核心の獲得、空とはすべてからの解放である。心にまで至れば、揺らぐことはなく後戻りはないが、観止まりだと、もう一度基礎基本の型に戻らなければならないことがある。重要なのは、著者である為末自身を含め羽生善治や山中伸弥といったインタビューをしたすべての熟達者たちが、一人の例外もなく遊から入っていることである。すなわち、楽しんだ経験のない物事に、人が熟達することはない。</p>
<p>② 図書名：悩みどころと逃げどころ</p> <hr/> <p>著 者：ちきりん、梅原大吾</p> <p>出版社：小学館</p> <p style="text-align: right;">I S B N : 9784098252749</p>	<p>足かけ4年、100時間にも及んだちきりと梅原大吾の対談を一冊にまとめたもので、もがいてあがいて遠回りして人生を歩いていくための指南書である。出版は2016年と古いですが、内容は一切色あせていない。ちきりんは国立大を出て証券会社に就職し米国に留学、外資系企業勤務を経て社会派ブロガーになった。一方の梅原大吾は、格闘ゲームで14歳で日本一、17歳で世界一になり、高卒でプロゲーマーになった。二人による思考の深まりが小気味良く、もっと読み続けたいほどである。「学校的価値観」という概念には、頭をブロックで殴られたような衝撃を受けた。</p>
<p>③ 図書名：言語の本質-ことばはどう生まれ、進化したか</p> <hr/> <p>著 者：今井むつみ、秋田喜美</p> <p>出版社：中央公論新社</p> <p style="text-align: right;">I S B N : 9784121027566</p>	<p>「どうしてヒトは、そしてヒトだけが言語を持つのか」、この問いに、言語進化と言語習得の過程を「オノマトペ → 記号接地 → アブダクション」とつなげることで解答している。ヒトがAIに負けるとする主張がある。いや、文章力一つをとっても、すでにChatGPTは一般的な大学生の能力を凌駕している。これに対し、「人間は、記号が身体、あるいは自分の経験に接地できていないと学習できない」と筆者は主張する。つまり、身体を持たないAIには、ヒトと同じ実感を伴う学習はできない。子どもの言い間違いの例なども極めて面白く、この書から言語の研究に興味を持ち、言語の本質へと迫っていただきたい。</p>